

# 新年を迎えて

しずない農業協同組合 会長理事 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族ともどもご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は5月より新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行し、毎年10月に開催されていたしずない農業まつりについても、今年は4年ぶりに開催出来、たくさんのお客様が来場し各種イベントで大いに賑わいを見せました。

また、青年部は10月にハロウイ

ン2023を開催し、2019年以来ということもあり、過去最高の千人近い来場者数で盛り上がりを見せました。なお、他の青年部活動につきましても6月上旬から6月中旬にかけて、新ひだか町の小学校3校と静内保育所を訪れ、定植体験授業、選果場見学、圃場見学を行い、ミニトマト産地ならではの取組みにより子供たちに学べる環境を作ることが出来、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつあります。

そういった状況もありながら、農業分野におきましては肥料・燃油・飼料などの農業資材は高止まりのままであり、特に夏場の猛暑による記録的な高温多湿の影響は大きく苦労の絶えない1年でありました。

昨年の農作物の状況としまして、当組合の基幹作物の1つであるミニトマトの促成栽培については4月から5月にかけて全国的に曇天続きで出荷数量が前年比較で伸び

ない状況が続き、6月に入ってから出荷数量は前年に追いつきつつありましたが、競合地域の出荷状況も重なり、価格が低迷してありました。7月の後半から9月の前半にかけては連日30度近い猛暑が続き、果房上部が赤くならず規格外品となってしまうグリーンパツク果の発生や高温障害での着果不良も多く、取扱金額、出荷収量ともに厳しい状況が続きました。取扱金額は8億2千万円となり、青果全体では8億8千万円となりました。

本年も3組の新規就農者の参入が予定されており、ミニトマト部会が目標として掲げる10億円を目指して参ります。

水稲は日高管内は104の「やや良」でありました。7月から9月にかけて猛暑が続きましたが収量こそ平年並みでしたが、品質の面ではのタンパク質も含め高品質な米を収穫することが出来ました。

また、純米吟醸酒「海桜丸」は、上川大雪酒造 碧雲蔵で仕込みを行ってから4年目を迎えております。飲み口の良さから評判も上々で、年々販売数量を増やしております。令和5年度産米の仕込みは

1月中の仕込み予定となっております。4月頃の販売を予定しております。本年度も「飲まざる酒」に仕上がることを期待しております。

黒毛和牛については、ホクレン 南北北海道市場の素牛平均購買価格は去勢で67万円、メスで54万円と、前年比較で10万円程度の安値で推移しており、当組合の年間の販売金額は4億9千万円程度と前年の5億7千万円程度より8千万円減少していることから、一昨年から引き続きいる配合飼料などの高騰により肥育生産者の経営が厳しい状況が伺えます。今後とも購買者のニーズに答え、より良い素牛を出荷できるような高齢牛の淘汰更新を積極的に進め、優良母系牛群の形成を進めてまいります。

また、酪農については一昨年より引き続き配合飼料などの高騰、そこに牛乳、乳製品の消費の落ち込みから北海道農協酪農・畜産対策本部委員会より生乳の生産を抑える方針を取られていることや、ホルスタインや交雑種の初生子牛につきましても安価な状況が続いており、黒毛和牛の受精卵移植が積極的に行われてきましたが、そ